

1人1台端末の活用による実践事例

学校名	岡山県立誕生寺支援学校	実践者名	中塚 麻穂
実践場面 (教科、領域、行事等)	ことば・かず		
単元・題材名	ぶんづくり		
学習目標・ねらい	・作った文を伝え合う経験を通して、いろいろな語句や文の表現に触れることができる。(知識及び技能) ・見たことについて、短い文を書くことができる。 (思考力、判断力、表現力等)		
対象の児童の実態	・知的障害部門小学部3年生5名。 ・5名とも太田ステージⅢ-2。 ・「だれが」「なにを」「どうした」の言葉を手掛かりにしながら文を言葉で表すことができる児童が多い。 ・書くことに関しては、平仮名のみ書くことのできる児童、片仮名を交えながら書くことのできる児童、指先の不器用さにより、文字を書くことが難しい児童がいる。		

指導の実際

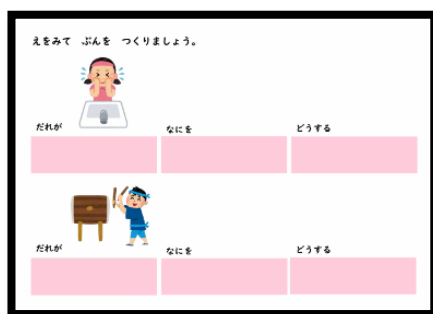
○指導の概要

イラストを見て、「〇〇が」「△△を」「□□する」という形で文に表す学習を行った。タブレット端末からアプリ「ロイロノート」を使用し、「ロイロノート」内でワークシートに記入した。記入したワークシートはアプリ内で提出し、教師のタブレット端末からプロジェクターで映してクラスで共有するようにした。

○学習の流れ

- (1) 課題を知る。
 - ・文の主語や目的語などが分かるように、ヒントを視覚的に提示した。
- (2) 文をつくる。
 - ・アプリ「ロイロノート」を使用し、教師がワークシートを送信した。
 - ・実態に応じて、ワークシートにタッチペンで記入したり、ひらがなのキーボードを用いて入力したりした。
 - ・ワークシートは書き込む部分の色を変えて強調するとともに、文字を打ち込むことができるようにした。
 - ・完成したワークシートはアプリを通して回収した。
- (3) 振り返りをする。
 - ・教師のタブレット端末をプロジェクターに繋ぎ、提出されたワークシートを一人ずつ提示した。
 - ・間違いがある場合はその部分について問いかけ、全体で共有し、正しい答えを考えるようにした。
 - ・アプリ内で丸をつけたワークシートを児童に返却した。

※初回のみ、書き込みや消しゴムなどの基本的な使い方や、提出の仕方などを学習する時間を設けた。



成果と課題

<成果>

- ・タブレット端末を使用したことで、文字を書くことが難しい児童もキーボードを活用し、文字を入力することができた。
- ・文字を小さく書くことが苦手な児童も、画面を拡大することで書き易くなった。
- ・タブレット端末にタッチペンやキーボードで入力することへの関心の高さや、自分や友達の回答がプロジェクターで映し出されることの新鮮さから、意欲的に学習に取り組む児童が多かった。
- ・自分でペンや消しゴムの切り替えをしたり、拡大や縮小をしたりするなど、タブレット端末を積極的に活用しようとする様子が多く見られた。

<課題>

- ・キーボードでの入力やタップ・スワイプなどの操作に慣れない児童もいた。操作を丁寧に説明したり、使用する経験を積んだりすることが必要だと感じた。
- ・主に余暇で使用しているような好きなアプリを授業の中で使用したくなる児童がいた。学習で使った経験が少ないことに原因があると考えられるため、学習での使用場面を増やしたり、ルールを提示したりする必要性を感じた。
- ・筆圧の加減が難しく、鉛筆で書く時に比べて文字が安定しない児童がいた。国語科の書字におけるタブレット端末の活用が適切であるか検討が必要である。